



令和3年度  
滑川町立滑川中学校卒業式  
答辞・送辞



令和4年3月15日

## 卒業生答辞

無限の可能性を秘めた未来へと期待に胸を膨らませ、私たち204名は滑川中学校を卒業します。振り返れば、あっという間の3年間でした。

花曇りだった3年前の入学式、私たちは少し大きめの制服に身を包み、期待と緊張を胸に中学校生活への第一歩を踏み出しました。慣れない自転車での登下校、定期テスト、部活動、頼もしい先輩、全てのことが新鮮で、目まぐるしく過ぎてゆく日々には圧倒されてしまいました。特に衝撃を受けたのは集団行動とラジオ体操でした。集団行動では、先輩たちの一糸乱れぬ動きと轟く声に思わず息をのみました。体育館の床から伝わってくる振動と音は鮮明に覚えています。ラジオ体操では、指先まで神経を行き届かせ、全身に力を入れ、腕の角度までそろえるという徹底ぶりに驚きました。そのレベルに到達するための奮闘は忘れられません。そうして、何をすることも必死だった1年はあっという間に過ぎました。

中学校生活にも慣れ、先輩として迎える春を待ち望む私たちを襲ったのは、新型コロナウイルスでした。3月からの休校は、じわじわと私たちを苦しめました。休校と分散登校が繰り返される中で思うようにはかどらない勉強。テレビをつければ感染症のことばかり。「ピンチはチャンス！」そう思っても先が見えない不安は常にありました。待ち望んでいた友達との再会は6月でした。ようやく2年生、クラス全員でスタートできる！あのときの喜びと少しの照れくさは忘れられません。

新しい生活様式の中での生活。知っていたはずの当たり前がない日常。今、置かれている状況を恨んだりもしました。楽しみにしていた修学旅行にも「行けないかもしれない」と不安を感じていました。そんな私たちの日常を守ろうとたくさんの方々が話し合い、協力して、最善の形で修学旅行のチャンスを提供することができました。そのことを知ってかたから、意識が変わり、行動が変わり始めたように思います。今できることを一生懸命に。「感謝」という言葉が私たちの中にゆっくりと沁み込んでいきました。事前学習で北陸のことを知り、実際にその地に立つことへの期待。新幹線の車窓からの雪景色にいやでも気分は盛り上がりました。東尋坊の切り立った崖と高い波に足を震わせながら見た夕陽。みぞれ交じりの雨の中、金箔ソフトクリームに夢中になった自由行動。世界遺産の白川郷では経験したことのない大雪に歓声を上げました。移動中の会話を控えたり、旅館でも全員が同じ方向を向いて食事をしたりと、たくさんの方々の制限を守りながらの修学旅行でしたが、最高の思い出を作ることができました。

限られた時間の中で、最大の効果を得るための練習を考えた部活動。「もっと練習することができたら」と思うことも何度もありました。本当なら、仲間と思う存分語り合い、毎日へとへとになるまで練習して、実力をつけて、きっと目指す目標に……さまざま大会の中止が知らされ、不安が募る中、私たちが最後の大会、コンクールを迎えられたのもたくさんの方々が力を尽くしてくれたおかげでした。その喜びと感謝は言葉にできないほどのものでした。

最上級生になった私たちは創立60周年という節目の年に体育祭に臨みました。最後の体育祭に、初めての試みである集団行動の演技披露。3年前、先輩たちの模範演技に口を開けて、ただただ圧倒されるだけだった私たちがこの挑戦のチャンスを得たことは本当に誇らしいことでし

た。それぞれが自分の役割を意識し、みんなのために、団のために、涙もケガも乗り越えて、汗を流しました。

最後の合唱コンクールは、マスクと共にありました。距離を取ってのマスク越しの合唱は思うように声が届かず難しいものでした。練習を重ねるうちに思い出したのは当たり前のことでした。「うたうって楽しい。合唱って人の心を震わせることができるんだ。迷い、悩み、泣き、作り上げた、私たちの歌。」

3年生の日々を過ごす中で、私たちは受験生としてそれぞれの目標へと努力を始めました。自分と向き合い、「逃げずに頑張ること」「ごまかさず取り組むこと」「結果を人のせいにはしないこと」は本当に難しいのだと知りました。受験は団体戦という言葉をよく聞きますが、受験生になってその意味がよく分かりました。授業は、一人で成り立つことはありません。競う相手がいるからこそ、支え合う仲間がいるからこそ、諦めずに高みを目指すことができたと思います。

「辛いこと、楽しいこと、悲しいこと、嬉しいこと、どんなときも一緒だったみんな。なんでもない話で笑い、くだらないことでケンカして、ちょっとしたことで泣いたね。そんな普通のことが私たちの3年間を支えてくれたし、成長させてくれたと思う。みんなと過ごした一瞬一瞬が宝物です。それぞれ進む道は違うけれど、これからも仲間であり、よきライバル、友達であることに変わりありません。これからもよろしくお願いします。」

ときに厳しく、ときに優しく、指導し、見守ってくださった先生方。先生方はいつも私たちのことを考え、導いてくださいました。それなのに、素直に向き合えないこともありました。「なんで?」「別にいいじゃん」そんな私たちの思いを先生方はお見通しだったのだと思います。根気強く、私たちにたくさんの言葉を投げかけてくださいました。素直であれ、正直であれと。「先生、私たちは、応援される人になれたでしょうか。」それぞれの道へと進む私たちが今日、堂々と胸を張って卒業を迎えることができるのは先生方のおかげです。今日まで、本当にありがとうございました。

そして、いつも一番そばで、味方でいてくれた、お父さん、お母さん。余裕のなさから反発したり、わがままを言ったり、困らせたこともありました。そんな私たちに、辛いときには寄り添ってくれて、楽しいことは笑顔で聞いてくれて、ダメなところは叱ってくれました。見守ってくれて、ありがとうございました。まだまだ迷惑をかけると思うけど、これからもよろしくお願いします。

笑い声が絶えなかった教室も、壁にもたれて語り合った廊下も、「また明日」って言い合った、あの昇降口も校庭も、そして今日が終わると通い慣れたこの学校も思い出に変わります。

たくさんの思い出を胸に、私達は今日、この滑川中学校から旅立ちます。前途洋々たる未来へ向かって……可能性は無限です。

結びに、これまで私たちを支えてくださったすべての方々にお礼を申し上げますとともに、滑川中学校の、ますますの発展を心より祈念し、答辞といたします。

令和4年3月15日  
卒業生代表 上原 愛唯

# 在校生送辞

冬の寒さも少しずつ和らぎ、うららかな春の光に心躍る季節となりました。晴れ渡る空の下、今日、この良き日に、滑川中学校を巣立っていかれる204名の先輩方、御卒業おめでとうございます。在校生一同、心より御祝い申し上げます。

今、卒業を前にした先輩方の心には、3年間の思い出が走馬灯のように駆け巡っていることと思います。

思い起こせば、2年前。私たちは小学校の卒業式も正式な形で実施出来ず、時の流れに任せるように滑川中学校にやってきました。入学式を終えると、すぐに休校期間に入ってしまい、先輩方ときちんとお会いできたのは6月でした。先輩たちは何もかも分からない私たちに、優しく声をかけてくださりました。私たちは不安を、楽しみやワクワクする気持ちに変えることが出来ました。言葉でも背中でも私たちを導いてくださった先輩方はいつしか私たちの憧れとなっていました。

5月の爽やかさと3年生が生み出す熱気が入り混じった中で行われた体育祭。マスクを外さず、汗をぬぐい、必死に声を出す先輩方には3年分の思いがこもっていました。体育祭前は、先輩方が私たちのために撮影してくださった応援合戦の練習動画を給食中に毎日見ました。いつもは黙食で静寂な時間でしたが、あのときは動画越しに先輩方の声が教室中に響き渡っていました。体育祭本番では、感動的な集団行動を見せてくださいました。足音のそろそろ行進、指先まで神経が行き届いた方向転換、とても私たち在校生には出来ない、素晴らしいものでした。

先輩方の輝きを間近で見た部活動。苦しい時手をさしのべてくださった先輩。自らを律し、練習に取り組む先輩。素晴らしい活躍を見せてくださった先輩。どんな時も輝く姿がそこにありました。先輩方が引退された今、部活動をリードする立場になり、先輩方の偉大さを痛感しています。先輩方と共に笑い、共に涙したあの日々を忘れることはありません。ずっと前を走り続けてくださった先輩方のように強くなりたいと心から思っています。

私たち在校生の中には、いつでも3年生の先輩方がいました。これまで滑川中学校を引っ張ってきてくださった先輩方からは「滑中生とはこういうものだ」という凛々しさや、時には威厳さえも感じました。長いようで短かった先輩方との日々。皆さんとだったからこそ、かけがいのないものになったのだと思います。本当にありがとうございました。

「もう見るのできない先輩方の姿」きっと皆さんは、これから大きく次の世界へ羽ばたいていくことでしょう。私たち在校生も次への一歩を踏み出します。先輩方から繋がれた伝統ある滑川中学校の襷を我が手に、強く進んでいきます。そして、この滑川中学校を日本一の中学校にする。そう決意しました。

新たな道を進む先輩方には、この先大きな壁を前に立ち止まることがあるかもしれません。そんなときは、一度振り返って、滑川中学校で過ごした日々を思い出してください。先輩方が過ごした3年間でこれからの未来を切り拓く財産となることでしょう。共に頑張る仲間がいることを信じて壁を乗り越え、自分の道突き進んでください。そしてこれからも先輩方らしく輝き続けてください。今までたくさんの感動をありがとうございました。

最後になりますが、先輩方の御健康と益々の御活躍を心からお祈りして、送辞といたします。